



アカアマダイ  
日本海西・九州北西部  
令和5年度資源評価結果

# 生物学的特性

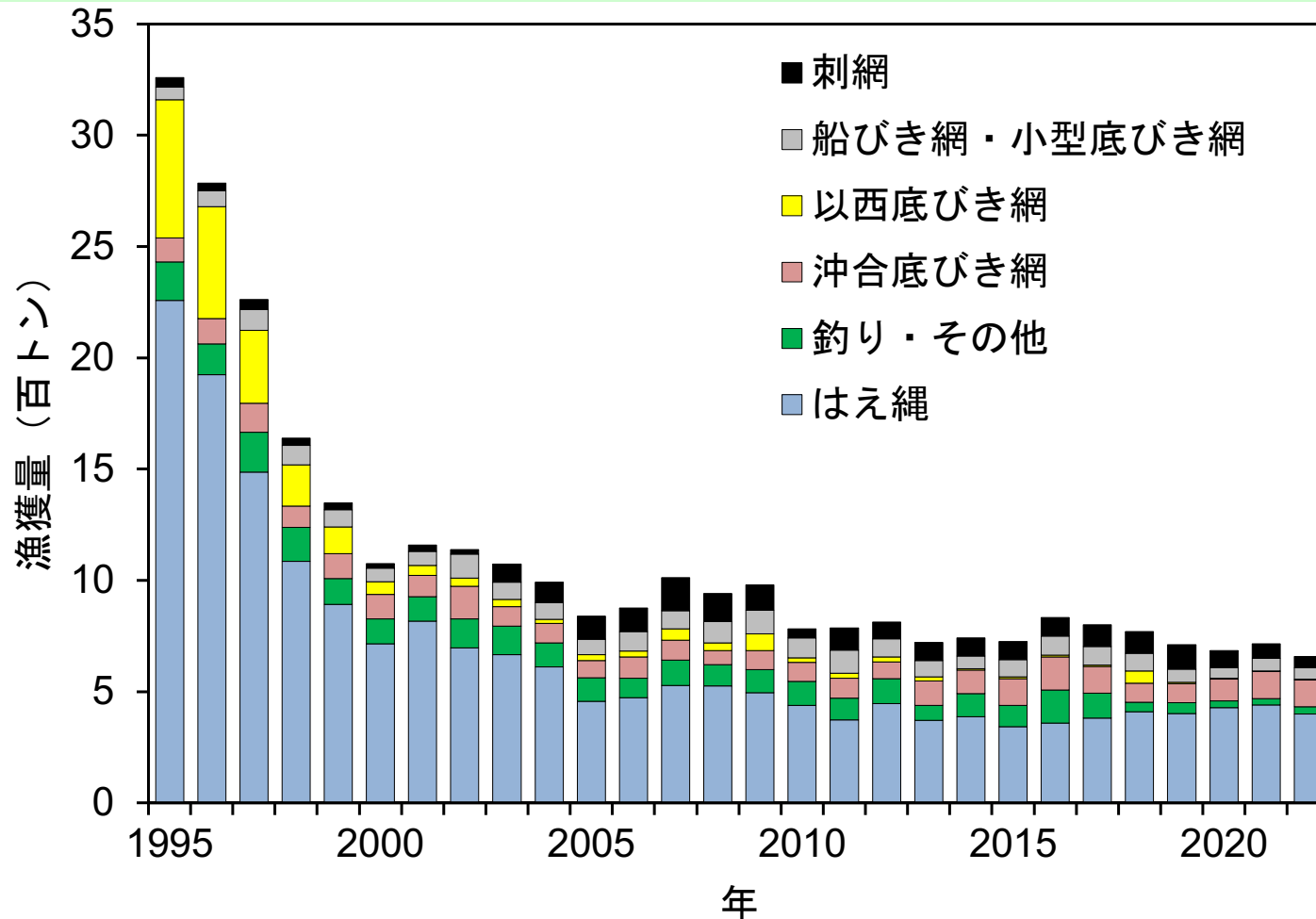


## 生物学的特性

- 寿命：雄11歳、雌9歳程度
- 成熟開始年齢：50%成熟全長は雌雄ともに4～5歳時に相当する
- 産卵期・産卵場：日本海南西海域で6～10月、対馬北東海域で7～11月、水深100～130mの海域
- 食性：魚類、甲殻類、多毛類、頭足類、貝類、棘皮動物
- 捕食者：底棲の大型魚類

- 日本海西部海域から東シナ海にかけて、陸棚上～陸棚縁辺域の水深80～130mの海域が主分布域

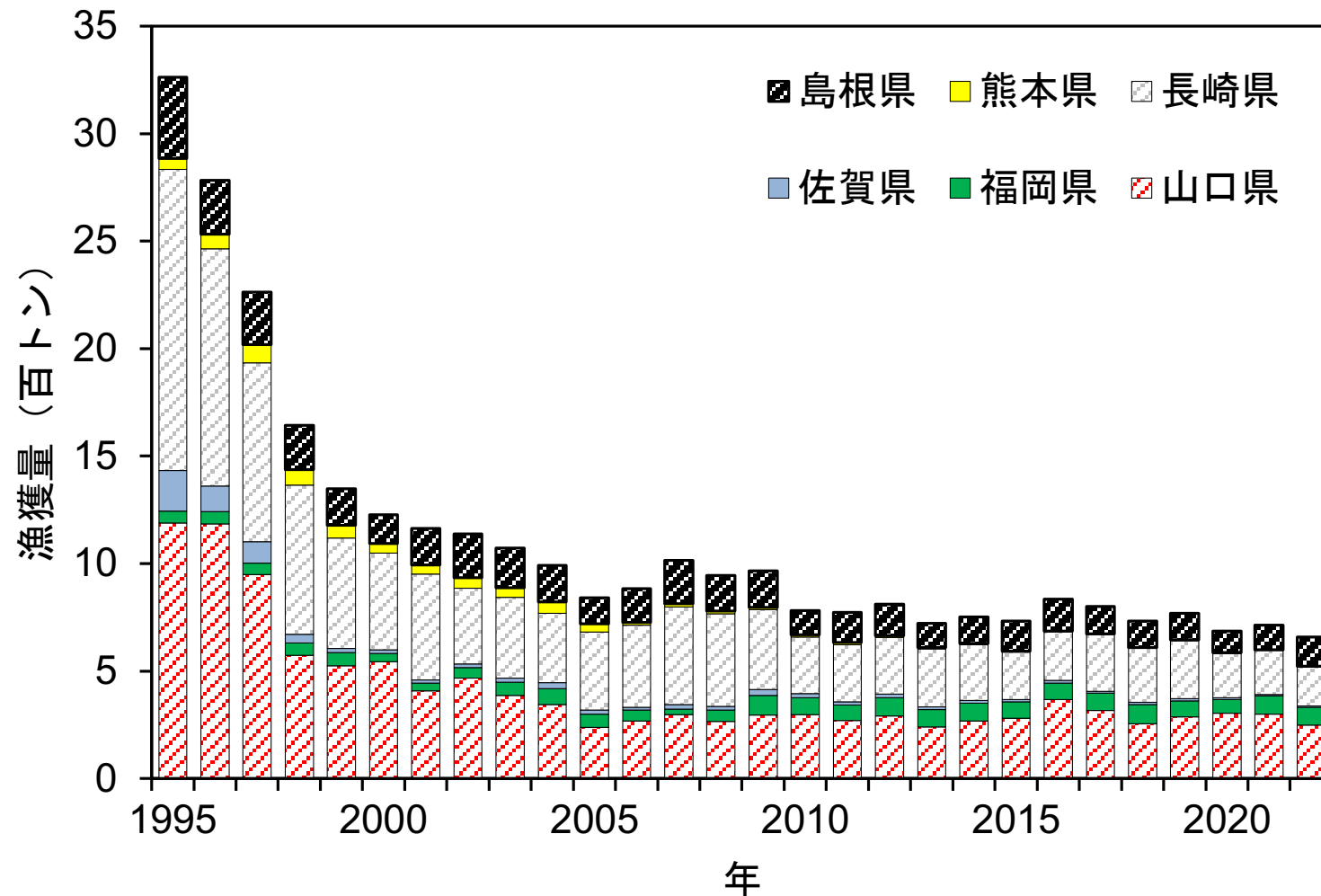
# 漁獲の動向①



- 漁業の主体ははえ縄漁業（はえ縄）
- 1995～2000年に東シナ海陸棚域におけるはえ縄漁獲量が急減
- はえ縄および沖合底びき網漁業（沖底）の努力量は減少傾向

※資源評価対象海域外である東シナ海陸棚上～陸棚斜面域での操業を含む

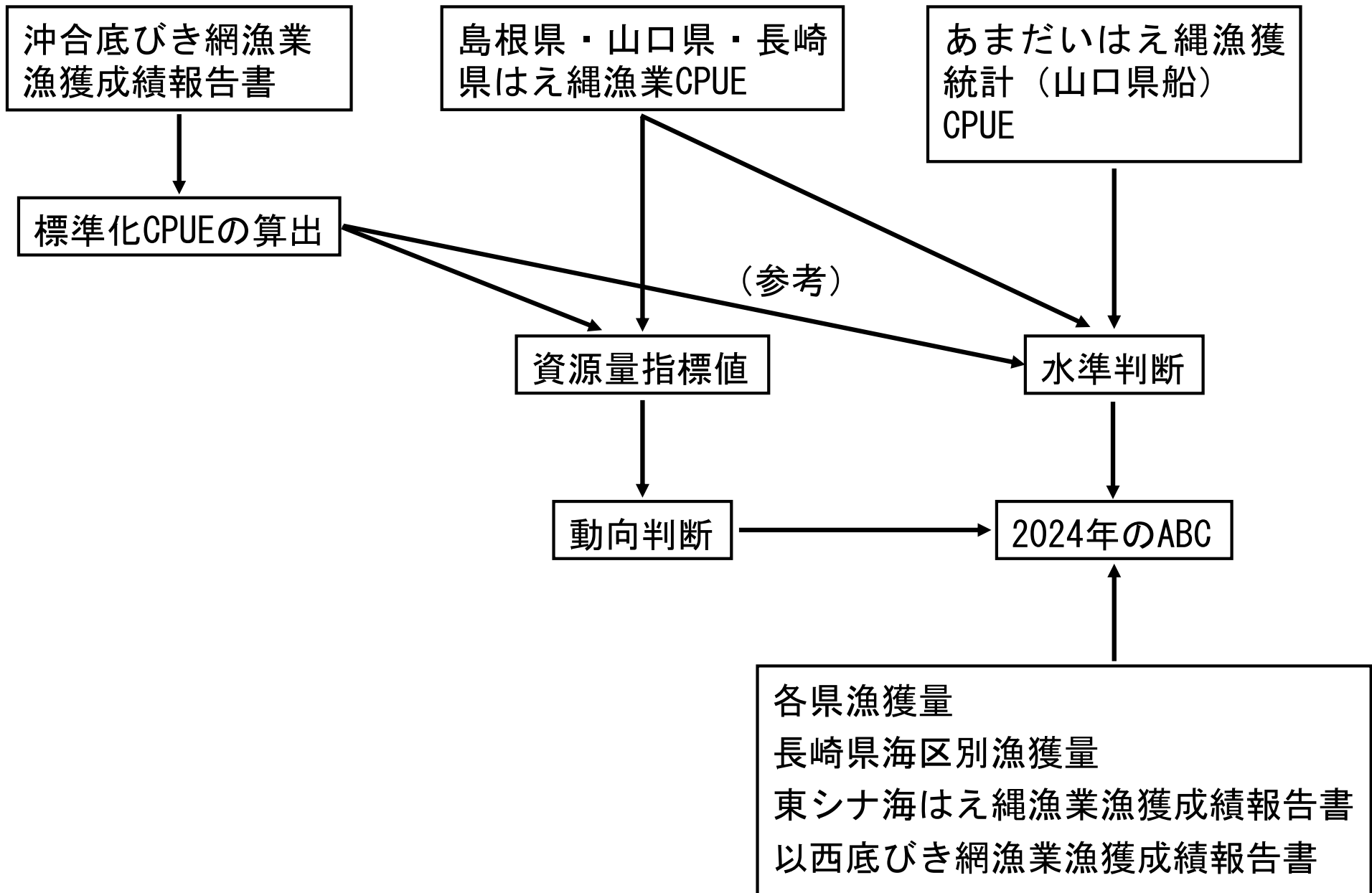
## 漁獲の動向②



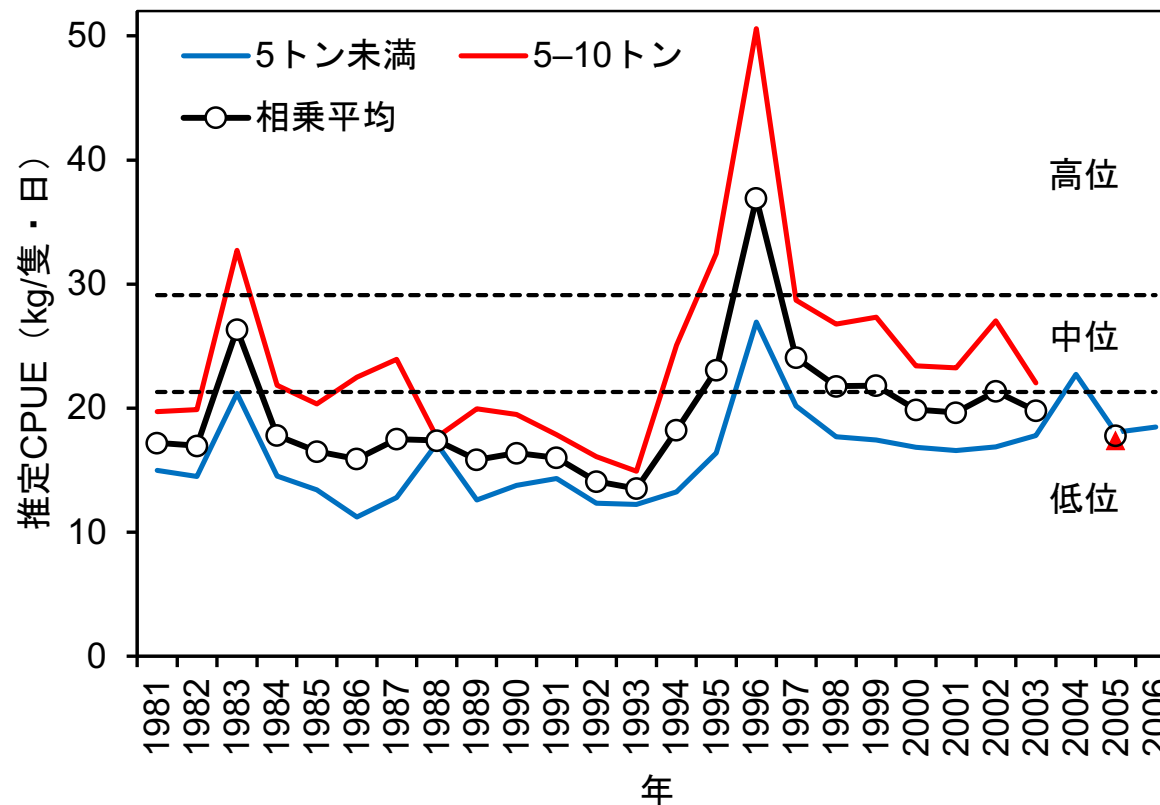
- 1995～2000年には東シナ海陸棚域で漁業の衰退により急減
- 山口県と長崎県が突出しており、次いで島根県が多い

※資源評価対象海域外である東シナ海陸棚上～陸棚斜面域での操業を含む

# 資源評価の流れ



# 資源の動向①

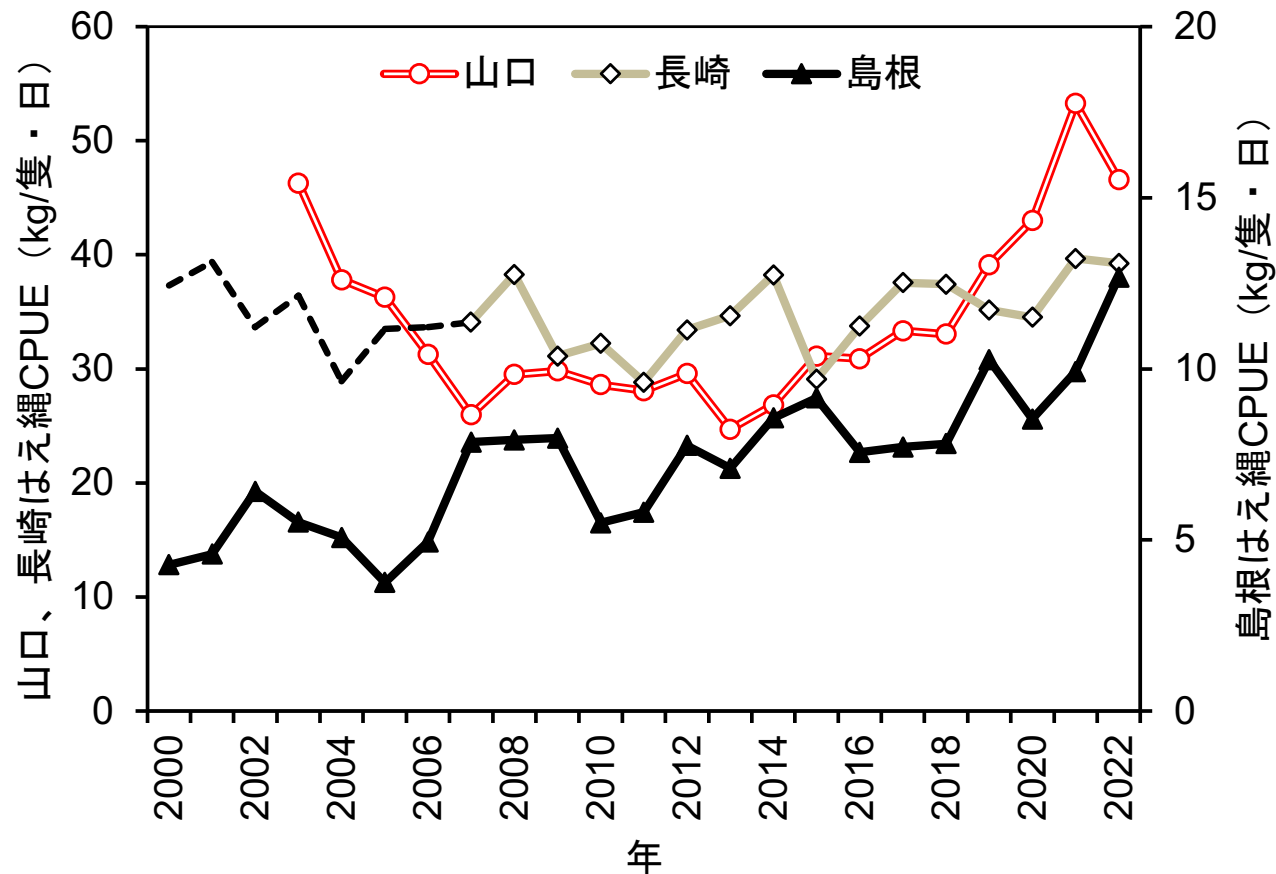


※水準区分 低位／中位：推定CPUEの相乗平均21.3、中位／高位：29.1  
 (推定CPUEの相乗平均の最大値36.9と最小値13.5の間を3等分して算出)

※▲：2005年の5～10トン船の推定CPUEを示す。2004、2006年の同値は欠測

- あまだいはえ縄（山口県船）のうち、同県沿岸で操業した5トン未満と5～10トン船の推定CPUEの相乗平均から2000年代前半の資源水準を判断
- 2000年代前半の資源水準は中位と低位の境界付近

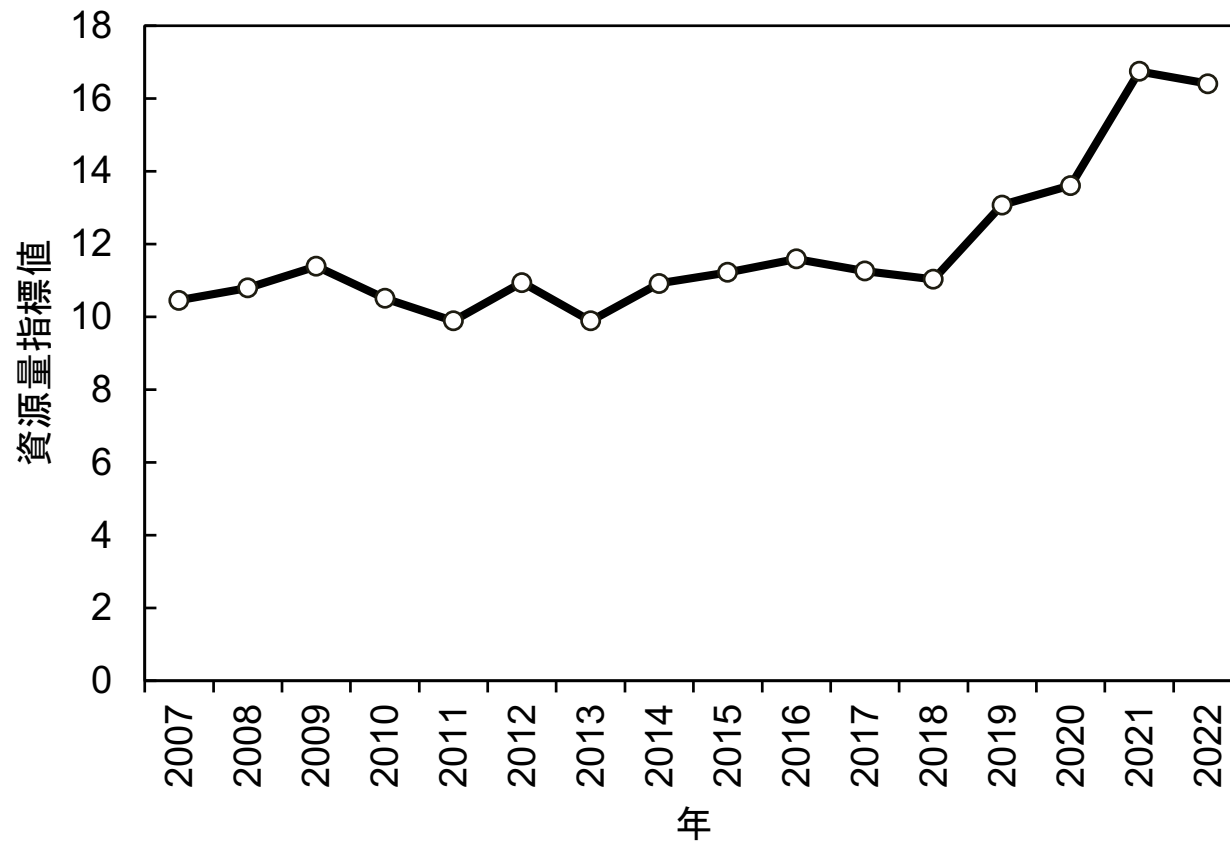
## 資源の動向②



※2007～2022年の長崎県CPUEは「豆豆（他魚種が混在）」銘柄を除外して算出  
 2006年以前は銘柄別重量が不明のため、「豆豆」を含めた参考値（黒点線）

- 島根県、山口県、長崎県のはえ縄CPUEにおいて、2000年代前半の値（低位と中位の境界付近の資源水準に対応）と2022年の値を比較し、資源水準を判断
- 2022年の各CPUEは2000年代前半と同等以上のため「中位」

# 資源の動向③



- 資源量指標値は沖底（2そうびき・浜田以西）の標準化CPUE、島根県、山口県、長崎県のはえ縄のCPUEから求めた
- 直近5年間（2018～2022年）の資源量指標値の推移から「増加」

※標準化CPUE：資源や操業による偏りを取り除いた、1操業当たりの漁獲量



# 資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は増加
- あまだいはえ縄（山口県船）および島根県、山口県、長崎県はえ縄のCPUEから資源水準を、資源量指標値の推移から資源動向を判断した

## 2024年ABC

管理基準	Target/ Limit	2024年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値 からの増減%）
0.9・Ct・1.09	Target	513	—	—
	Limit	641	—	—

- ABC算定規則の2-1)により、 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- $\delta_1$  : 0.9（標準値は1.0だが水準判断の不確かさを考慮）
- Ct : 2022年の漁獲量
- $\gamma_1$  : 1.09（直近3年間（2020～2022年）の資源量指標値の平均値と傾きから算出）